

第4回 市民動物園会議

会 議 録

第4回 市民動物園会議

- 1 日 時 平成20年8月9日(土) 13:30から15:30
- 2 場 所 円山動物園内 動物園プラザ
- 3 出席者 委 員：原田 昭、いがらし ゆみこ、井上 剛、
太田 富士栄、鈴木 美佐子、林 健嗣、原 はるみ
(欠席) 服部 信吾、須藤 深雪

事務局：環境局理事、円山動物園園長、経営管理課長、
飼育展示課長 ほか

4 議 事

- (1) 基本計画の報告
- (2) 近況報告
 - ア イベント等
 - イ 入園者数及び入園料収入状況
 - ウ アニマルファミリー会員登録状況
 - エ その他歳入歳出状況
 - オ 光熱水費、燃料費の状況
- (3) 委員からの提案・意見交換
- (4) その他

1. 開 会

○金澤園長 それでは、定刻よりちょっと早いのですが、皆さんお揃いになっておりますので、ただいまから第4回市民動物園会議を開催したいと思います。

申しわけございません。冒頭におわびを申し上げなければならないのですが、本来でしたら会議は3月の時点では6月か7月ぐらいには開催したいというお話をさせていただいていたのですが、ちょっと時期がずれて本当に申しわけございません。基本計画の作成にちょっと手間取りまして遅れたこともあって、本日となりましたことをおわび申し上げたいと思います。

今日は、期間が空いた分、盛りだくさんの内容になっておりますので、ご審議のほどをよろしくお願ひしたいと思います。

最初に、私の左隣におります新目理事は、環境局で動物園を所管しております局長職でございます。ちょっとごあいさつをさせていただきたいと思います。

○新目理事 新目でございます。

今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

本日はどうもありがとうございます。

○金澤園長 何と言いましても、実は今日が今年度初めての会議になります。大分遅くなりましたけれども、ご了承いただきたいと思います。

それから、皆さんに既にご連絡をさせていただきましたのでご承知かと思いますが、実は森田委員が一身上の都合によりまして青年会議所を退会され、あわせて今回の会議の委員も退任されました。その交代としまして、太田富士栄委員が就任されましたので、ご紹介したいと思います。

お願ひします。

○太田委員 初めまして。

札幌青年会議所未来環境創造委員会で幹事を務めています太田富士栄と申します。

皆さん、よろしくお願ひいたします。

○金澤園長 それでは、これ以降の会議の進行を、原田委員長、よろしくお願ひいたします。

2. 議 事

○原田委員長 それでは、今年度第1回の市民動物園会議を開催させていただきます。

まずは、円山動物園の園長から、本日举行内容についてご説明をいただきたいと思ひます。

○金澤園長 まず先に、出席状況を確認させていただきます。

本日は、須藤委員と服部副委員長が所用によりご欠席されておりますが、過半数の出席がございますので、今回の会議は成立しております。

あわせて、資料の確認をさせていただきたいと思ひます。

事前にお配りしました資料としましては、資料番号1の出席者名簿、資料番号2の3分冊になっております札幌市円山動物園基本計画、資料番号3の近況報告としまして、資料3-1から3-7までにそれぞれなっております。添付資料としまして、オオワシシンポジウムとかインドネシアフェアのチラシがございます。このほかに、先日、北海道新聞のかわら版に大学、専門学校と動物園の連携の話が出ておりましたので、お配りさせていただいております。

もし、資料等でお持ちでない方がおられましたら、事務局の方にご連絡いただきたいと思います。

○原田委員長 それでは、基本計画の報告というところから始めたいと思いますが、その前に、今日私は、ここへ来る前にちょっと時間を取りまして、動物園の中がどのように変わってきたかというのを見させていただきました。割合、お客様もたくさんおいでのようでした。

ただ、暑いのかもしれませんけれども、弟路郎が陰に入ってしまった、一番奥の方でウロウロしておりました。いないではないかというお客さんもたくさんいたようで、奥の方にいますよと言っておきました。

あとは、シロスジアゲハでしょうか、アゲハチョウが随分元気に昆虫館の中を飛んでおりました。いつか行ったときは何も動いていなかった昆虫館でしたが、今日は子どもたちもたくさんいまして、よかったなという感じでした。

いろいろな所を歩いてみますと、1年前と比較して中身が次々と変わっています。最近では、コココーラのアースというカフェがオープンいたしましたけれども、あそこも行列をなして、なかなかはやっているようでございますので、良かったなと思っております。

それでは、基本構想をベースにして基本計画がどのように策定されたのかということについて、動物園から報告をお願いしたいと思います。

○金澤園長 それでは、基本計画の内容について報告させていただきたいと思います。

前回、第3回の会議で基本計画案の内容を説明させていただきました。そして、その時点で、動物園の案として、市役所内の意思を固めて、最終的には3月末までに市長決裁を得て、札幌市としての動物園の基本計画にしたいというお話をさせていただいたところだったのですが、その後、関係部局との調整が結構もめまして、やっと調整が調ったという状態なのです。そのため約4カ月おくれて決着を見ましたので、本日の会議で皆さんにご報告をさせていただいて、今後、速やかに市民に公表するようしていきたいと思っております。

事前に各委員には配付してございますが、この基本計画が3分冊になってございます。一通りお目を通していただきますと、前回の第3回の資料とほとんど変わりがない状態ということもございまして、簡潔に概要を説明させていただきたいと思います。

基本計画の考え方でございますが、実は、前回も申し上げました基本構想に基づく実施

計画となるもので、おおむね10年間、平成29年度までの長期計画となっております。その中間の2011年度、平成23年度に開園60周年を迎えるのですが、そこまでの期間を集中取り組み期間と位置付けまして、札幌市のまちづくり計画とも整合性を図りながら、基本計画の中身は少し詳しく述べてございます。

24年以降は、基本計画を見直しする時点で具体的にしていこうという考え方でございます。それから、ご存じと思いますが、昨今の厳しい財政状況、それから一番ネックになっている原油の価格、これは私どもでは想像がつかないぐらいの価格の状態ですが、そういう問題もございますので、そういった外的要因によって常に実現可能性の検証とか、さらに毎年の財政状況とか動物園の収入状況を勘案しながら、計画年次を随時見直すことも視野に入れた計画になってございます。

基本計画の構成ですが、第1部は円山動物園の役割と行動指針、第2部は経営戦略とソフト事業、さらに施設整備と動物管理という3分冊になってございます。

第1部の円山動物園の役割と行動指針では、基本構想に定めた円山動物園の役割を三つの柱にまとめて計画事業を整理してございます。ここでは、市民にとってどのような役割を持つ動物園が望ましいかを考えまして、円山動物園の存在意義を高める事業を盛り込んでございます。さらには、円山動物園そのものを特徴づけて際立たせる事業として、ほかの動物園との差別化を図る事業を積極的に盛り込んでございます。

それから、第2部の経営戦略とソフト事業と第3部の施設整備と動物管理には、集客施設としては実力を高める事業を盛り込んでおいて、円山動物園が将来ともに持続するためにはどうしたらいいとか、長期の経営戦略、それから集客事業を整理してございます。この中には、基本構想の中でも言われていたのですが、平成23年、2011年の60周年までに平成17年と比較して入園者数を倍増し、収入を倍しにします。それから支出を30%カットということまで盛り込まれたものであります。

実は、概要版をご覧いただきたいのですが、こういった概要版の中に今お話ししたような内容を盛り込んでおります。概要版にもありますように、左の上の方から基本構想の理念をまとめたものと、動物園の存在意義を高める事業、次は特徴づける、際立たせる事業ということで、これが第1部に盛り込まれています。そして、集客施設としての実力を高める事業が第2部の経営戦略と第3部の施設の関係といった盛り込み方にしております。

第3部の施設整備と動物管理では、施策、ソフトをハード面から支える動物舎や、来園者サービスを考えた施設全般についての事業を盛り込んでおります。それから、飼育・展示方法や動物舎の整理は、今の札幌市の財政上、短期間に大規模な投資はなかなか難しいので、当面は全体の配置計画を示しながら動物舎ごとに見せ方などを検討していくことにしてございます。

特に、今回変更になりましたところは、第3部の109ページでございます。

109ページには年次計画が入ってございます。白黒で見づらくて申し訳ないのですが、年次計画が入っておりまして、今回はこの整備計画の入れ替わりがあったということで

ございます。

そこで、大きなポイントというか、入れ替わりがあったところをお話しさせていただきますと、左の方に縦にあります。基本構想があって、基本計画と北海道北方圏ということで左の項目がございますけれども、その中の北海道北方圏のところ、21年度にヒグマ館の建設というものがございます。これは、前回説明させていただいたときには24年以降にあったものですが、これが21年のところに前倒しになっております。その反面、アジア、アフリカのところで、アジア館の建設そのものが23年以降に送られております。もともとは21、22年という形でございましたが、それが後ろの方へ送られたということです。要は、ヒグマ館とアジア館の順番が入れかわったということでございます。

そして、110ページのところに全体の計画がありますが、これは以前のものです。その次の111ページに新しい基本計画のイメージ図がございますけれども、これは前回と全く変わっておりません。要は、今申し上げました109ページの順番が入れかわったということでございます。

太田委員は前回おられなかったもので、ちょっと申し訳ございませんが、そういうふうに変わっております。

それから、行ったり来たりして申しわけないですが、概要版の裏を見ていただきたいと思っております。

基本計画広報版というものがございます。これは、内容は同じものなのですが、それを広報の視点から、一般的に広めていくときにどうしたらいいか。以前からご指摘がございましたように、新聞の見出しを意識した構成にした方がいいということで、今回はそれを意識して、「円山動物園は『ノアの方舟』と『癒し』で入園者数100万人を目指します！」というキャッチコピーをつくりました。ちょっと長いのですが、「ノアの方舟」と「癒し」という言葉をつけてまとめてみました。

「ノアの方舟」は、ご存じのとおり、ノアの方舟で動物たちの種が残ったというところから使っております。「癒し」は、都会のオアシスをつくり出していこう、動物園自体をそういう方向に持っていけるようにということで使っております。入園者100万人をハードとソフトセットで進めていけるようにしたいという視点から入れたものでございます。

簡単ですが、基本計画の説明は以上でございます。

○原田委員長 今、10年計画で、ここに書いてあるのは大体5年計画ということです。その中でも、ヒグマ館、アジア館が入れかわりに、前倒しになったり後にずれるということでもございました。

ただいまのお話の中で、委員の方々からご質問、ご意見等はございますでしょうか。

○いがらし委員 109ページに、アジア館とヒグマ館が入れかわったと金澤園長がおっしゃっていましたが、そのアジアの方にゾウ館建設という文字があったのです。今、ゾウは必要か必要ではないかという問題を市民に問い合わせしているのですね。市民会議でも、きょうは盛りだくさんなので、次回にもちょっと話し合ってみたいと思うのですが、

いかがでしょうか。

○原田委員長 建設的なご意見です。

今までもゾウが亡くなってからどうするかという問題は、これは市民会議の前のリストア委員会での時点でもご意見はいろいろ出たのです。やはり、子どもたちはゾウが動物園にいないと寂しいのではないかというような話です。ただ、いろいろなご意見がありまして、最近では、ゾウを1頭だけここで預かるという形ではなかなか済まなくなってきました。ゾウの繁殖ということもございますので、その時点では6頭ぐらい同時に飼わないと国際的なゾウのやりとりができないというお話もありまして、それは大変だなというご意見もありました。

今の時点でどういう状況なのかは私もよくわかりませんが、いずれにしても、ゾウの問題は亡くなったということで途切れておりまして、その後、ここには計画として24年以降のところにゾウ館建設と記載されていますが、本当にどうするのかというあたりのディスカッションはこの市民会議で十分しておく必要があるのではないかと思います。

そういうご意見ですけれども、委員の皆さん、いかがでしょうか。

○鈴木委員 その件は108ページに載っていたので伺おうと思っていたのですが、そこに2008年2月に市長と学生の討論会があったり、いろいろな声を伺って検討していくというふうに書いてありましたので、今、どういう議論がなされていて、どういうご意見があるのかということをお知らせしていただいた上で考えさせていただきたいと思います。

○原田委員長 今、ゾウに関してはどのような検討がされているのでしょうか。

○金澤園長 まず、「市長とおしゃべりしませんか」ですが、2月に開催して、対象は大体20歳前後で、専門学校と大学生を対象にしました。なぜかというと、年配の方だとゾウの懐かしさがあって、ゾウは欲しいねとなるだろうし、子どもだったら絵本の世界だから実物を見たいなというふうになるので、20歳前後の世代をターゲットにしたら一番シビアな意見が出てくるかなということで、「市長とおしゃべりしませんか」という形にさせていただきました。

その内容は広報さっぽろにも載っていたのですが、あの時は60人ぐらいいて、ゾウを導入すること賛成、反対、わからないというのがおおよそ3分の1でした。おもしろいと言うと変ですけども、どっちかに偏っているのではなくて、おおむねそんな感じでした。どちらかというと、ゾウはいた方がいいというのが多かったのですが、最初にどうですかと単純に聞いてみても、手が挙がったのを見た感じでは3分の1ずつ、終わりころでも大体3分の1というイメージでした。ですから、議論としてやってみるのにちょうどいいのかなという感じがしました。

その中で、ゾウがいた方がいいという方の代表的な意見は、陸上にいる哺乳類の中でも一番大きな動物はゾウですから、そういったものはインパクトがあるので、子どもたちにぜひ見せたいという意見です。それから、いなくてもいいよというのは、ゾウがいなくてもいい動物園のつくり方をしたらどうかという意見です。その間のどっちでもいいという

のは、いろいろな意見を聞きながら揺れていました。それから、おもしろい意見は、ゾウ舎をつくるのに十数億円のお金がかかりますという説明をしていますから、それだけのお金がかかるのだったら、それをゴミの有料化に充ててくれれば、そっちはただになるのですねというご意見です。そういうふうに、結構おもしろい議論があったのです。

今のいがらし委員からの提案は、次回にでも1回検討したらということですが、それまでにそういう資料をそろえて送らせていただきたいと思います。

○原田委員長 そういう資料をいただいたところでいろいろお考えいただいて、次回にその検討を行うということによろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは、ゾウをどうするかということについては、次回、ゆっくり検討するというようにさせていただきたいと思います。

ほかに何かございませんでしょうか。

どうぞ。

○林委員 基本計画の後半とかこの1枚は非常によくったのではないかというご意見が原委員からありまして、僕も、これは同じ資料なのかと思うほどわかりやすくなったと思いました。伝える気持ちが伝わってきた感じがしましたので、ご苦労さまでした。

ただ、私は、体の調子が悪かったので、ここ4カ月ばかりこちらに来られなかったので、動物園の変わりようが今日ははっきりと分かったのですけれども、我々の会社もそうですし、日本の会社はみんなそうなのですが、こういうしっかりした計画を立てると、いつから始まるみたいな、折角こんな具体的な計画を立てたのだから始められるところから始めればいいのではないかというふうに思います。

厄介なのは、役所も我々の会社もそうなのですが、基本的に今あるものでやることはすぐ出していった方がいいのではないかと思うのです。

褒めておいて、後は落とすのかという感じですが、入り口から入ってきたときに、変わったという感じは余りしないのです。コンビニができたので、後で楽しみにしていこうと思いながら入り口を見たら、余り変わった感じがしないのです。インドネシアがあって、今回のイベントだなという感じでね。

やはり、この動物園は、前から言っていますが、ほかの動物園と違うこと、これから紹介されるのでしようけれども、いろいろな意味で発信の仕方が少しずつ変わってきている、これは非常に札幌市民としては誇りに思います。動物園に来たとき、あなたの選択は間違いではなかったでしょうと思わせる仕掛けは、ぜひもっと前向きに、看板代がかかるなど、金のことを考えると非常につらいのですけれども、何か手づくりでもと思います。

基本計画がこれだけまとまっていっちゃっていて、何かせつかくですからという感じがいたしました。ついでに言いますと、全部を出す必要はなくて、広報のやり方としては、全部を出す必要はなくて、今回はこれを押そうというふうに出して、来月はこれを押そう

というふうに出して、2カ月に1回いらっしゃる鈴木委員には、2カ月来るたびに変わったと思わせるといった、せっかくこれだけまとまったのですから、ぜひこれを発信していただきたいなと思います。これが冬になって人が来なくなってから発信しても広報の効果の意味がないというふうに思いました。

以上です。

○金澤園長 ありがとうございます。

○原田委員長 私もそのように思います。

今日、ちょっと気が付いたことがあるのですけれども、奥の方に斜面をずっと上がっていくと、オオカミ舎が出来ているのです。結構、人がたかっています、2匹に増えていて、なかなか仲よく近くで昼寝をしていました。そこへハチがやってきて、1匹のオオカミが追いかけて回しているという、それが非常に良かったのです。ただ寝ているだけではなくて、クマなんかは随分寝ていましたけれども、シロクマは元気でしたが、そういう動いている姿を見せる工夫ですね。いつもハチをとということではなくて、たまたまハチがやってきてビックリしてオオカミが騒いでハチを追いかけて、観客は、「今の食べたかな」と言っているわけです。そういうところがおもしろいところだと思うのです。

やはり、ああいうオオカミ舎もちょっと前はなかったわけで、いつになったらこの崩れそうなオオカミの舎が直されるのだろうかと思っていたら、すごく良くなったと思います。片方にシカもおりました。

私が気が付いたのは、この三つは分かりやすくいいなと思うのですが、基本計画の中かソフトの中か分かりませんが、前回の市民会議の中で、アニマルファミリー制度というものがかなりの目玉ではないかというお話がありました。その辺は、私の感想としては、あのファミリーをもうちょっと増やしていくにはどうしたらいいかという方策を考えないと、今のままでは人数は足りないなと思うのです。

そのためということではないのですけれども、これからの動物園の集客、あるいは動物園を市民のものにしていくという考え方で、アニマルファミリー制度で市民のサポートによる動物園という方向を打ち出しているわけですから、何かサービスを考えていく必要があると思います。

そこで、昨年暮れあたりに、情報的なサービスを行うということでIC付きのカードを渡して、お客さんがどういうふうに、そのときは弟路郎というアニマルのファミリーという仮想の仕組みをつくって、100人ほどのファミリーを想定してカードを渡していろいろおいでいただいて、イベント等に参加してもらいました。家でも弟路郎が見られるのは非常にいいということで好評だったのです。実際問題、帰った後も、動物園に行く前にもそういうサービスが受けられるということになると、私は、札幌だけでなく、北海道の遠くにいる人たちのファミリーも、この動物園と情報系で結びついていく、それから、道外であっても、この前も大阪から来た人がはっきり言っていましたけれども、これは私も参加できるものではないかという質問をしていたのです。それぐらい離れたところのサ

ポーターも引き寄せることが出来るわけです。

例えば、今日歩いていましたら、Tシャツを売っているのです。MARUYAMA ZOO、あるいはANIMAL FAMILYというものを作って、それは本当にファミリーにならないと手に入らないみたいな特別のTシャツを着て歩けるみたいな、そういうものはいいのではないかと思うのです。ただ、アニマルファミリーという制度がありますよというのではなくて、それを増やしていく努力というものがサービスという面で講じられるといいのではないかと思います。

この辺はどうでしょうか。私だけがそう思っているのかなということであっては良くないのですけれども、いかがでしょうか。

○井上委員 アニマルファミリーのことについていろいろ思っていたことがあるのですけれども、私は、今年の4月に勤務先でプレゼンをやりました。実は、私は勤務先の理解を得てこの会議に参加しているものですから、会議の内容について大体20分ぐらいのプレゼンをやったのです。その中で、特にアニマルファミリーのことはホームページからリーフレットをダウンロードしまして、一応、うちの会社は支店も含めると大体70人ぐらいの社員がいるのですけれども、それを配ってアニマルファミリーの宣伝をさせていただいたのです。

その後、それが終わってから飲み会があって、その時にすぐに言われた意見として、井上さん、年間5,000円は高過ぎて誰も参加しないよと言われたのです。それは1人の方の意見だったのですけれども、そう言われてみて、5,000円というのは、最初にこの制度をやるときに、ほかの全国の動物園の制度と比較して、5,000円というのは大体妥当なのではないかという部分と、収益を上げるということを考えるならば、やはりそのぐらいの値段を取らないと厳しいかなというご説明がありました。

今回、資料をいただいて、現状で大体200万円ぐらいの応募があったということで、それが多いが少ないかというのは始まったばかりなので、この評価はこの数字だけでは難しいと思うのですけれども、値段については5,000円というのが高いのか安いのかというのは難しいところですが、私は個人的にはなかなかお手軽に入れる値段かどうかというのはちょっと微妙なところです。5,000円というと、多分、スポーツの観戦チケットとかCDとかDVDと同じぐらいだと思うのですけれども、それは何が違うかということ、形のあるものと、これは形がないとは言わないのだけれども、結局、入ることでどういうメリットがあるのかということがいまいち分かりません。先ほど、委員長から、ICカードを配ってリアルタイムで映像が見られるサービスはどうですかというお話があったのですけれども、これだけのものを出して、メリットだけ云々というものもどうかと思うのですけれども、それがないと難しいのかなと思います。

それから、最近、たまたま円山動物園フリークの方とお知り合いになって、いろいろな情報提供をいただいたのですけれども、アニマルファミリー制度は、2月から先行開始で、ことしの4月から本格的に始動しているのですが、加入されている方から聞いたところで

は、メール配信もいろいろ情報提供してくれるということでした。4月から始まって、個体によって違いはあるらしいのですけれども、今までメールが来たのが1回とか2回で、頻度的にちょっと少な過ぎるのではないかというお話も聞いています。

私の意見としては、会費についてはもう少し安く抑えた方がいいのではないかというのが1点です。それから、加入するのに、まず郵便局とか銀行に会費を振り込んで会員になるという一手間が結構面倒かなという部分もあると思うのです。今、インターネットで買い物をするのでも、カードの入力をしたら簡単にIDがとれて決済できるようなシステムもあります。その辺のシステム上のことは結構経費が掛かる問題かと思うのですけれども、そういったサービスも検討してはどうかと思います。値段の部分については、これからの加入状況を見ていただいて、柔軟に変えていってもいいのかなというふうに思います。

○原田委員長 ありがとうございます。

○金澤園長 会員の登録状況を説明させていただきたいと思います。

資料3-5の近況報告の中にアニマルファミリー会員の状況がございます。この上の左側を見ていただきたいのですが、7月末現在で会員数は243件で、口数としては360口、合計205万9,000円となっています。

4月以降に入った方が109件で、2月から3月いっぱいまでに入った方が134件ということで、始まって半年くらいですから、半分半分すると、3カ月ごとに大体100件ちょっと、金額的には大体100万円ぐらいです。

私たちの方としては、今、これを五つの種類から始めていますので、もう少し増やしたいと思っています。やり始めて、今まさに井上委員からあったように、メールの頻度が低いということもあります。確かにそのとおりだと思います。我々も、今、どうやっていったらいいかという工夫をしている最中です。それから、動物の種類を増やしたいということもあって、今、検討している最中です。

頻度の問題は、まさに情報として我々の方でいろいろ作業をやっていけば済む問題だと思いますが、メールのある環境の人とない環境の人がいて、ない人にお手紙で送るといったら、逆にその方が高つくという問題があるので、申し訳ないのですが、今は余り出ていないところがあります。

それから、動物の種類については、これから検討して増やしていきます。

それから、先ほど言われましたが、1回申し込んで手間暇が掛かるよという話ですが、実は、うちの動物園も役所なものですから、アニマルファミリーの会費というのは寄附の扱いになっております。きちんと寄附しますよと意思表示がないと、逆に言うと会員に登録出来ないという役所上の問題があります。先にポンとお金だけ振り込まれて、これでいいよという訳にいかないのです。実は、そこが問題です。我々としても、振り込み用紙がパンフレットなどに付いていて、それでそのまま振り込んでいただければ会員になれるという仕組みがいいのですが、役所の中では現時点では出来ないのです。何とか会計の方とそれを改善出来ないかという話をしているのですが、今のところはまだひっかかっていま

す。とにかく、寄附という形意思表示をしっかりと受け入れられない。

その反面、5,000円を超えると、寄附ですから、税金上の寄附控除の扱いにもなるという形になっております。

そんなジレンマがあることは事実ですから、今後、きちんと検討し、さらに改善して、ファミリーを増やしやすいうようにしていきたいと思っておりますが、ちょっと時間が掛かるかなという状況です。

今の時点では、243件のうち、ララが一番人気があって96件、次がライオンのリッキー、レッサーパンダのココ、あとはレディと弟路郎が大体同じぐらいでございます。

○林委員 僕は、井上委員の話には反対なのです。

まず、200人入ってきたという状況は、大したものなのです。なぜかという、我々もいろいろな意味あいで行っていますけれども、そんなに早急に寄附をする人が現れるわけがありません。それを3,000円にして2,500円しても、今度は振り込みが面倒くさいと言ってくる人が出てくるのです。はっきり言って、そういう人は今は要らないのですよ。基本的には、寄附をするということの中で、海外でもそうですけれども、動物園に来て、そこで気持ちがあらわれて、払いたいとか、動物園を見て、助きたいとか、そういう思いがない人たちがただ集まるのは、かなり活動が進んだときに、私も入らないとプライドとして許さないと人たちが入ってくることが最終段階では。それまでは、しっかり支えたいという人たちに入ってもらおうということです。

そのためには、先ほど園長がおっしゃったように、今はサービスをどうするかがまず問題かもしれない。今の200人の人たちというのはコアの人たちになると思いますけれども、そういう人たちに対して、今、井上委員が言ったように少しメールが少ないのではないかという部分は真摯に向き合うべきだと思うのです。極めて難しいです。ひとりの人の意見を聞けば、ほかの人の意見もあって、メールがしょっちゅう来るのも困るということもあるのです。ですから、ある種のサービスですから、サービスをしてよろしいですかということをきめ細かくやることと、いかに映像的におれはファミリーだぞと思って頂くことが一つあればと思うのです。そういうところできめ細かなことをやって、委員長のTシャツはまたお金が掛かるとか、それもお金を払って頂くのかなとか、寄附というのは、とにかく動物園に負担をかけないために、動物たちのためにやる訳ですから、なるべく会員たちがお金を出しても気分が良くなるようにするか、その5,000円の中に、あるいは1万円の中にそういうTシャツ分を入れるか入れないかという工夫をしていただくことが大切で、また、その企業に応援をしていただくとかということなのかなと思います。

井上委員には申し訳ないのですが、その意見で討論すると、うちもよくやるのですけれども、結局、採算が合わなくなるのです。採算が合わなくなってどうするかというと、血の汗をかいて最終的にどうしたかという、これはまずいな、増えていけばいくほど赤字になるぞ、では何のための寄附だったのだということになりかねないのです。特に最近のITのものは、実は裏を返すとそういうものが多いのです。ですから、5,000円

はこのままにして譲らない方が良くと思います。

問題なのは、5,000円分の価値をどう高めるかという委員長の話だと思うのです。

○原田委員長 私は、まさにそうだと思うのです。お金を下げると、逆にサービスが出来なくなってしまいます。どんどんサービスが出来なくなってしまう。そして、ファミリーになったのにどうしてくれるのかというクレームが多くなってきます。虻蜂取らずというか、首が絞まっていくみたいな感じがするのです。

ただ、問題は、先ほどもチラッとありましたけれども、5,000円でファミリーになったのだけれども、その実感がないというか、そのうち何かサービスが来るだろうとくらいに考えている人が多いのではないかと思うのです。それが来ないということがはっきりわかってくると、そこで入ってくる人たちの足も止まるという事態になるのではないかと思います。

私は、自分のファミリーになった動物の映像を家で見るとというのが本当は理想的なのです。ララを昼間に見て、帰ってきたら、昼間はちょっと元気がなかったけれども、今はどうかみたいな感じで、元気だ、それは良かったねというようなやりとりが目につかぶ訳です。しかし、そこまでやると、5匹のアニマルについてそれぞれカメラをくっつけなければいけないので、予算をどうやって工面するのかということにすぐになってしまうのです。

ただ、今はウェブがありますので、ウェブを活用して、5頭それぞれの獣舎につけるのではなくて、今日は何というふうに限定して、それを回していくというふうにコストを下げるような努力をすれば、きょうは弟路郎の日とか、きょうはララの日とか、きょうはレッサーパンダの日とか、あるいは週間でもいいのですし、今月はでもいいですね。そういうことで回していくと、そのファミリーには喜ぶチャンスが与えられるわけで、そういうサービスを受けたというところで納得出来るのではないかと思います。

ファミリーだけが見られるというボタンを付けておいて、ファミリーはそこでパスワードを入れると、その動物が見られるような特典のようなものがなければいけないと思います。5,000円を払ったのに特典はゼロであると、それはどうなのかということになるのではないかと思います。私は、小さなサービスでもいいから確実にそれが得られる仕組みをきちんとセットしていかないと、これは続かなくなってしまいます。これは大きな軸だと思うのですけれども、軸をなくすことにつながるのではないかということを実は懸念している訳です。

○鈴木委員 参考までに、私の夫は東京に住んでいまして、弟路郎のアニマルファミリーなのですが、ほとんど情報が来ないので、飼育員さんのブログを毎朝会社に行っては見て、それで情報を得ているような状況です。

これは年会費ですから、次の時にまた会員になろうと思わないのではないかなという危惧がありますので、そのあたりはお考えいただきたいと思います。

○原委員 私は、逆の立場でちょっと申し上げます。

今、おっしゃっていることはすごくよく分かりますし、大変難しい問題だと思うのです。

札幌市から情報をインターネットで知ることは出来ますけれども、来園した方にはアニマルファミリーだから特別に企画をされているということが伝わっていないと思います。一般市民、来園者にも納得のいくような特別な企画であってほしいと思うのです。

○林委員 まず一つお願いは、先ほどの看板の事です。僕は広報の視点でしか考えていないのですけれども、弟路郎の話とかオオカミの話とかいろいろ出ましたが、オオカミ舎が新しくできて、もうやっているのかもしれませんが、普通の企業広告で言うと、今も看板を出して、オオカミ館開館中と普通は開館の年度中くらいは、書いてあるものです。僕はそれを期待して入ったら、ないのです。おれは、自分は知っているけれども、どうなのかなと思うんじゃないですかね。

普通の企業だったら、どんと入ったらオオカミ館新設みたいなことが書いてあって、今元気とか、今ちょっと寝ているということを書いてあるのです。飼育員の方が今寝てるかもと書くとか、元気とか、何時にハチを追っかけたよ、みたいなことをチラッと書いておくと、期待してオオカミ館へ向かうという、ひとつの道筋(動機)が出来ると思うのです。

考えてみたら、アニマルファミリーも、入ってきて何も分からないのです。アニマルファミリーは、ニューヨークのメトロポリタン美術館へ行っても、どこの美術館へ行っても、何かメンバーというものがあって、コンシェルジュ(受付)のような人がいて、並んでいると、この人だけは特別だよみたいな入場の仕方をしているのではないですか。お金を払ったらとか年会費を払ったらそうなるのだよみたいな感じになっていかないかと思うのですよ。「あれは何か」と聞くと、「あれはちょっとファミリー会員と言って…」みたいなことが生まれてくる。ですから、私は看板のことばかり言って看板屋のようですが、それはまず必要ではないでしょうか。

そうすると、サービスはということになるのだけれども、例えば今の原委員の話で言うと、新しい入口を作るわけにもいかないでしょうから、何か特別に見られる部屋がありさえすればいいかなと思います。会員が入ると見られる部屋があるということがあると、それも宣伝になるのです。「あの部屋はどうやって入るのか」と。

○いがらし委員 ディズニーランドには特別に入れる部屋がありますよね。

○林委員 ありますね。

○いがらし委員 ジュースがただで出てきたりとかね。

○林委員 それは、ちょっとした工夫なのです。要するに、それも広報なのですよ。

例えば、今、委員長がおっしゃっていることは、きっとそういうことなのだと思うのです。要するに、特別なドアがあって、そのドアは会員の人しか入れないのです。その人は、そこから見られるのです。大した差はないのですけれども、椅子などを置いてあったりして、ちょっと特別意識が生まれる。おれは特別だぞみたいなね。

○いがらし委員 冷たいお水がこんな小さいコップでただで飲めるとかでもいいですね。

○林委員 そうなのです。

来てもらうということがすごく大事だと思うし、来て足を運んで特別意識になるという

ことはすごく大事だと思います。そのうちお金がたまって、委員長がおっしゃるウェブに映像を流すとか、そうしたアイデアを少しずつやれば良いと思います。

今の200人で、鈴木委員のだんなさんが困るということで、それはしょうがないとしても、新しい会員を入れるというのは、そういう地道なところではないかと思うのです。本当に今の200人はすぐにやめてしまうのですか。根強いと思うのです。こういう何も無いところで入る人はそうはやめないですよ。

何かマーケティングをしたらいかがでしょうか。本当に入った方で何がいけないのか、200人ぐらいだったら、今のうちにやっておいた方がよいと思うのです。

〇いがらし委員 アンケートをとるとか、どうしたら入っていてよかったと思えるかとか、こんなものでは来年はやめるよと思っているとかね。

〇林委員 一番いいのは、いがらし委員がおっしゃるように、動物園としてはビクビクするでしょうけれども、来年も継続なさいますかと。それを1回送っただけで、来年はちょっと、何をしたら継続しますかと。それもマーケットですからね。

〇原田委員長 それはすごくいいと思います。ぜひ、思い切ってそれをやったらいいと思います。

〇いがらし委員 脱線すると思うのですけれども、アニマルファミリーでこうやってくれるのは、私個人としても円山動物園が大好きなのでうれしいので、ボランティアで、アニマルファミリーのお子さまを対象に、例えばココちゃんの絵を描こうという写生会とか、私が絵の先生としてお子さんに教えるというのもいいと思います。アニマルファミリーの人たちに、夏は嫌ですが、秋にやると。私は、常々、北海道の幼稚園児や小学生には立派な漫画家になってほしいと願っておりますので、そういう子たちにちょっとした動物の描き方を教えるのは私も楽しくて、何度かやったことがありますけれども、物凄く才能のある子たちもいますので、私も楽しんで出来ると思うのです。

やり方としてどうかというのはきちんと煮詰めていかなければいけないけれども、例えば、ココちゃんを描きたいという時に、ココちゃんに5,000円を払っていない人もそっちに参加したいといえ、ほかのアニマルファミリーならオーケーにするのか、もう一回、5,000円を払うのか、一般参加で近所のアニマルファミリーではないお友達と一緒に描きたいという場合は、私は10人が15人になっても痛くもかゆくもないから、それはエサ代をもらうかとか、そういう細かいことはすごく出てくるとは思います、私は身をささげます。

〇金澤園長 ありがとうございます。

〇原田委員長 すばらしい申し出ですね。

〇いがらし委員 それしか才能がないので……。

〇原田委員長 ありがたいです。

そういうイベントがあれば、これは入っていて良かったねということになるのです。来年はどうかと聞いたら、当然でしょうというふうになるのです。それに参加できなかった

人は、たまたま参加出来なかったけれども、来年は参加しようということにつながっていくわけです。私は、それはすごくいいお申し出だなと思います。

〇いがらし委員 やはり、見て描くということはすごく大事だと思います。

今日、たまたま北海道新聞のぶんぶん写生教室の表彰式があったのですけれども、本当に子どもたちの絵はいいのです。私も刺激を受けますし、相乗効果で、これが企画として具体的になるのなら、とてもうれしいです。

林委員に細かく作ってもらって、会員になっていない人が参加したい人を連れてくる時は幾らもらおうとか……。

〇林委員 やりますよ。いがらし委員が動けば、私どももニュースに流させていただきます。アニマルファミリーの会があったと、さらっとアニマルファミリーと言えば、それは何だというふうになります。

〇いがらし委員 お面を作るのもおもしろいですね。形で切り抜いておけば、低学年はそれに色を塗ればいいだけだから、出来たものをかぶって園内を歩くと、あれは何か、私も作りたいと。

〇原田委員長 アニマルファミリーにしてしまうわけですね。

〇いがらし委員 そうです。

〇金澤園長 ありがとうございます。ぜひ、いがらし委員と相談させていただきたいと思います。まず、日にちを押さえるところから始めなければならないです。

〇いがらし委員 比較的、大丈夫です。

〇原田委員長 そういうものが一つの看板だと思うのです。今年はこの動物、あるいは、ここでやるというファミリーの集いと。そして、次のチャンスにはここでアニマルファミリーの看板が上がると。園内の行事といえば行事になります、それが看板になります。今はその看板が見えないということですね。

〇金澤園長 そうですね。

〇原委員 現にやっぴらっしゃるのですよね。

〇金澤園長 実はまだ一回りしていないのですが、先ほどのメール配信とは別に、今、お誕生会をやっている最中で、感謝イベントを入れてやっています。最後はレディが来て一回りするのかな。

今のところ、会員の3分の1ぐらいが参加しています。ただ、土・日の日中にやっていると、例えばアニマルファミリーだけのイベントになるものですから、先ほど原委員が言われていましたように、どうしてなのかというところがあるのですが、そういったところはこれから少しずつ変えていかなければいけないと思っています。

〇いがらし委員 どうしてなのと言う人には、すかさずパンフレットを。

〇原委員 先ほど、林委員がおっしゃったように、アニマルファミリーの誕生会、きょうはどこそこの誕生会をやるのだよというPRがなかったために、来園者が何か？と思ってしまうと思うのです。

○金澤園長 まさに林委員が言ったように、入り口に看板の表示があると……。

○林委員 開催中とあればね。

○金澤園長 だから、その入り口だけで区別がきちんとしてくるのかもしれませんが。

○いがらし委員 そうですよ。会員になった人は、その看板を見て、私たちを呼んでいるわとを感じるのです。

○原田委員長 飲むところでも、何とかクラブ会員制度というものがありますね。ここは入れないなどみんな思うわけです。そういう見返りがあれば、それが権利となって得られるのです。空港にもサクラルームというものがありますけれども、そういう部屋にスッと入っていく人は、よく見るとカードを持っていて、こういうものを持っていないと入れないのかと。そういうことではないかと思うのです。それが何も書いていないと、彼は何で入れて私は入れるのかどうなのか分からない、動物園は一体何を考えているのだということになってきてしまうと思うのです。

○金澤園長 本当に、いろいろなご意見をありがとうございます。

○原田委員長 それでは、ほかに特別にということがございましたらご意見をいただきたいと思います。

○原委員 全体を読んでいて気になったことがあるので、今後のために参考にさせていただけたらうれしいと思います。

大人をターゲットにして、癒しというお話がありました。今回、少しずつ園が変わってきているといっても、箱物が目立つ状況に思えます。癒しというのは果たして何だろうと考えると喫茶店が出来たからいいのだろうか、こういう施設が出来たからいいのだということだけではなく、例えば、私が個人的に感じることは、正直に申し上げますけれども、今回、オープンしたドサンコの森の森という言葉に癒しを感じて見たのですが、確かに中に入ったときに、春の時点で作られた時は、エゾリスがいる設備などはすごく自然の状況があってよく作られているととても感心したのです。その後、繰り返し入ってみました、その景色が季節によって変わっていくように整備されているかと期待していましたが、まだそこまでは出来ていないようですし、リスが全く動いていない状況で、あそこで満足出来るものがあるかという、果たしてそれはどうかなと感じています。

今後、いろいろ施設が出来てくるとと思いますが、例えばヒグマ館に導入する道筋の中に、偽木でもいいのですけれども、シラカバがあるとか、そういうような林を通ってきてヒグマに会えるというあり方が癒しにつながると思います。その場所だけで癒すということではなくて、動物園全体で癒しにつながるようなことをひとつでも早く手がけていくことが基本計画に説得力が付くのではないかという気がするのです。

先ほど、林委員がおっしゃったように、入口から入って何も変わっていないような気がするということにもつながると思うのですけれども、新しい設備へ行っても、本当にその前まで行かなければ何も変わっていないというところが感じられました。どうか予算を含めてその辺を検討していただければという気持ちがあります。

いかがでしょうか。

○原田委員長 その辺は、動物園で何か考えていることがあるのですか。

○金澤園長 施設の計画の中に既に盛り込んでいるのですが、最終的に施設の配置がきちんと整理されて、今、描いてあるイメージ図も一応のイメージであって、具体的にはこれからということになります。実は、その中に緑化の考え方はまだきちんと入れていないのです。なぜかという、動線を決めて緑化とか見せ方を考えていかないと決められないのです。ですから、ある程度、施設の配置が終わった時点で一気にやりたいと考えています。というのは、ここにはいろいろな木の種類がありますが、できるだけ生物多様性の理念に基づいて、もともと北海道にあった木に変えていきたいのです。総合的に緑化計画をきちんとやっていきたいと思っています。

それから、今は一つ一つの獣舎の中では完結するようにさせていますが、できるだけ隣の獣舎と連続性の中で物語ができるような絵の造り方にしていこうと、施設の計画そのものをそうしていこうと考えています。もともと北方、北海道ゾーンとか、アフリカとか、アジアと、大ざっぱですが、ぼんぼん切ったのはそういうことで、そのゾーニングの中で一つずつ完結させていきたいと実は思っております。

ですから、今の時点では、アプローチになる部分、入口になってくる部分がまだ足りないというのは事実だと思います。それは、今後、これから手をかけていきます。

それから、実は今、よその団体から申し入れがあって、園内に花壇がいっぱいあります。皆さんおわかりのように、寂しい花壇なのですけれども、それをお手伝いしましょうという団体がございます、今、いろいろ考えてくれています。

園内緑化は91ページに入れております。こういうふうには、ビオトープも含めて全体の生物多様性の中で見ていこうと思っています。そうすると、ドキドキ感が、木の間の迷路のようになっている、急に開けた場所に何かがあるというところをきつと作れると思いますし、私もそういうふうにしたと思っています。

それまで、原委員、一緒に頑張りましょう。

○原田委員長 私は、おっしゃることはすごく感じる場所があります。

ドサンコの森は、入ってすぐ右側のクマザサはすっかり白黄色くなって枯れたものが作り物かなという感じですし、入ったときにアツと思うようなものがないのです。多分、そのあたりが、ちょっと前は良かったというところがあるのではないかと思います。

私は、これから作る獣舎、あるいは館という建物については、円山なりのルールのようなものにのっかって、これはほかにないよ、こういう癒しを計画的に考えていますよと。ここでの癒しと違うところの癒しとの違いは、こんなふうにはっきり違いますよと。

例えば、弟路郎のところは中が緑になりましたね。あれは、すごく感動を与えるところだと思うのです。今日も弟路郎は草をちぎって食べていました。これは大変だと思うけれども、そうしたいのなら、そういう環境ですごく生き生きしていいのではないかと観客は思っていると思うのです。ファミリーになった人にも、これはなかなかいいよというも

のが伝わってきていると思うのです。オオカミ館もそうなのですが、あそこもちゃんと緑を入れてあります。そういうコンセプトがこことここについてはあるなという感じがします。

やはり、屋内をどうやって緑にしていくかというところは、ドサンコの森はまさにそうなので、屋根が付いていてどう緑を保存、育成していくのかというあたりは、ちょっと知恵が要るなと思います。上を抜いてしまって、網にして、外との空気の流通をうまくして緑を育てるということが出来ないのかなと、私も今日、あそこを見てそう思ったのです。

そういうところは、これから新しい獣舎の作り方を考えていただいて、確かに林委員がおっしゃるとおり、ゲートから入ると、草も生えていない、土も固くなっている、そこに入って行ってしまふところから始まるので、変わっていないのではないかという印象が非常に強いところもあると思います。そういう緑の作り方も、あそこはもともと円山ですから、円山の樹木をちゃんと選んでいただいて、連続性を持たせていくような植栽計画をつくっていただきたいと思います。これは、まさに園内緑化整備そのものだと思います。

こういう話をしていると切りがなくて、3時半という時間を簡単に過ぎてしまいそうな感じがします。今日は、報告事項がまだたくさんありますので、近況報告というところに入って、時間が少し出てきたところでまたご意見をお聞きしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○原田委員長 それでは、2番目の近況報告をお願いいたします。

○金澤園長 まず、前回、第3回会議以降のイベントを報告させていただきたいと思えます。

資料3-1でございますが、この中の主なところを報告させていただきます。

今回、イベントのところは3-3までございます。これは、基本計画の3分冊になっているものに合わせた形で整理しております。

それで、まず3-1ですが、これは円山動物園の役割と行動指針に沿ったもので、何点か報告させていただきます。

まず最初に、日付が左端にあって、右端に目次があります。普通は目次が先にあるのですが、目次というのは基本計画の目次に整合が取れている形にしてございますので、そういうふうに見ていただければと思います。

まず、3月15日、動物園の森計画案説明会ということで、今年着工する予定のビオトープの増設計画を市民の皆さんにご理解していただくということで、説明会を開いております。

それから、ずっと中ほどに5月17日、カエル展開催とございます。実は、今年は国際カエル年という年なのです。急に降って湧いたようにカエル年が出てきまして、今年はカエル年ということで、カエルとか両生類の問題を取り上げようということで、5月17日にカエル展を開催してございます。

それから、5月25日、アースデイEZOと書いております。アースデイというのは、地球環境をテーマに取り上げて、世界的に行っているものです。通常は4月20日前後なのですが、北海道は、今年は特にサミットもあるのでちょっとずらそうということで、5月25日に実施しております。これは、NPOや学校が27団体参加して園内で展開するお祭り風というか、露店風の構成になっています。

それから、6月19日のみんなのドキドキ体験というのは、もともと34メニューくらいあったのですが、ここからメニューのバージョンアップを図りまして、今は41メニューくらい動いています。この中で、自然環境とか環境問題を提案出来るような形をとります。特に、その一つとして、今日は夜の動物園ということで午後9時まで開園していますが、8時から「月夜のタヌキ全員集合!？」ということで、ことし8頭のタヌキが産まれたのです。雄4頭、雌4頭なのですが、それらを使ってタヌキの生態を説明する時間を設けます。夜8時で暗いですからタヌキはなかなか見えないのですが、うまく照明を当てながらやっていきたいと思っています。

それから、6月22日にはオオワシ野生復帰会議をこの場所で行いました。

それから、23日はオオワシ国際シンポジウムということで、新聞にも取り上げられていますし、お手元の資料にもございますが、コンベンションセンターで230人ほど参加いただいています。日本はもとより、ロシア、イギリスの3カ国でのシンポジウムを開いております。

それから、資料3-2の経営戦略のところですが、上から四つ目の4月5日、28日、6月7日、ANAの感動案内人ツアーということで、全日空がセールスしたお客様を対象にドキドキ体験を行います。

その下の4月8日には、メイト、近畿日本ツーリストが動物園でのドキドキ体験をします。これは、通常の観光バスではなくて、ファミリータイプの車で来るような仕掛けになっています。

それから、4月26日、27日には、チェコに住んでおります沢則行さんという人形芝居をされている方が、エゾシカ・オオカミ舎の完成にあわせて、科学館の方で人形劇をしております。あわせて、その後に教育文化会館で人形劇を開催しております。

それから、下の方に行きまして、7月12日のトワイライトZOOというものです。これは、JTBが夜の動物園を企画しまして、子どもたちを対象にしているものです。12、21、23日とずっと続いて、七、八回開催されます。夜の動物園の子ども版という形です。

その下の7月13日の長寿まつりということで、これは動物園のボランティアが主体になっている七夕まつりでございます。

ここで、動物園でこんな体験をしたいという夢を出していただいて、きょう、その実現をしているところです。残念ながら、皆さんはここにいるので見にいけないのですが、カバのエサやりをしたいという人がいたら、それを採用して子どもたちがエサをあげます。

今日、四つか五つが実現しています。

それから、資料3-3の施設整備と動物管理ということで、先ほど来出ておりましたが、4月9日にエゾシカ、オオカミ舎がオープンしておりまして、4月18日にこども動物園のリニューアルオープンということで、ドサンコの森とかビーバーの森が完成しております。そして、4月25日は先ほどあった弟路郎のところでございます。

その後をついでに申し上げますと、7月29日はコココーラのカフェが出来たのと、30日には隣にありますセブン・イレブンが出来ました。この二つが出来たことで、お客さんの動線が相当変わってきておりますので、これから施設の配置や見せ方をいろいろ検討していく中では参考にしていかなければならない視点だと思っております。

それから、新聞等でご存じだと思いますが、6月19日にオラウータンの弟路郎の脱走未遂騒動がございましたので、概略を簡単にお話しさせていただきます。

6月19日の昼の12時半ころに、屋外放飼場のロープを使って弟路郎が屋根の上に手をかけられる状態になってしまったのです。そして、ちょっとの間、中央部の屋根の上に弟路郎が上がっていたのです。それを飼育員が見つけて、速やかに誘導して、弟路郎は食いしん坊ですから、エサで引き寄せることが出来るので、それで無事に収容しました。

弟路郎の所は、屋外放飼場を今年の4月にオープンしてから、最初のうちは弟路郎は表が嫌いだったのですが、だんだん環境が良くなってきて、草がぼうぼうになってくるとともに、弟路郎はあの中でいろいろ遊ぶのです。多種多様な道具があって、それらを使いながら遊ぶのです。我々があの設計をしたときは、弟路郎はあまり動かないだろうという前提でやったわけではないのですが、そういう感じの見方をしていました。ところが、すごい行動範囲が広がってきたというのが現実です。

ということで、未遂とはいえ、動物やお客様の安全第一を前提とする動物園としてはゆしき問題だろうと思って反省しております。早速、その安全確保の視点からも万全な対策をとるべく、表を改修しまして、7月24日から再開しております。

再開してすぐに、石川動物園でチンパンジーが逃げまして、屋根の上で、麻醉銃を取り上げるようなニュースが流れて、弟路郎はああいうふうにならなくて良かったなと思いました。

〇いがらし委員 あれは凶暴でしたよね。

〇金澤園長 今後、このような事件がないようにしていきたいと思っております。

あとは、動物に関する報告ですが、3月3日にはシロフクロウが2羽来園して、名前は空と大地ということで、松山千春の世界で名前を決めてみました。

これは冗談です。ちゃんと公募で決めた名前です。

〇いがらし委員 松山千春さんにも協力してもらったらどうですか。

〇金澤園長 3月17日にはチンパンジーのハルが産まれております。

それから、残念な報告としては、4月23日にマレーバクのスティーブが亡くなっております。そして、5月10日にはアメリカワシミミズクのバンジョーが、フリーフライト

に使っていたものですが、亡くなっています。

そして、5月24日には、先ほどちょっと触れましたが、エゾタヌキが8頭産まれております。

それから、6月25日にはインドガン、6月28日には、今は大分ブレイクしてきましたレッサーパンダのセイタです。一生懸命、ココとの同居訓練をしているのですが、ココの方が気が強いせいか、セイタがちょっと小さくなって負けている割合が高いと思っています。

そして、6月29日は、世界的な快挙と言えますが、ヨウスコウワニが誕生しております。

そして、7月12日にはエゾシカが1頭産まれております。エゾシカは、既に一般公開をしております。

あとは、インドネシアフェアということでチラシがついておりますが、今年はインドネシアと日本の国交樹立50周年ということもあって、インドネシアに生息している動物が園内に10種類いるのです。そういうものを中心に、今、フェアを実施しております。

それから、資料3-4の入園舎のところです。

入園舎の一番上の左側にございます20年度の7月分の6万5,000という数字がございますが、この修正をお願いしたいと思います。

これは、7月29日現在で皆さんのところにお配りしているのですが、今回は修正しまして、7月は7万1,702ということで、71,702にふえてございます。これが7月末の数字でございます。

併せて、右端にあります入園料収入も、1,813万2,000円を2,000万79ということで、20,079に変更をお願いしたいと思います。これも7月末にお知らせしたものでございます。

人数につきましては、19年度と比較しまして、現時点では15%伸びてございます。

8月に入ると、逆にもう少し伸びが出ていますので、20%近い伸びになろうかと思えます。

それから、入園料の方では、同じ7月末で比較しますと、20%の伸びでございます。

そういう意味では、結構増えてきたのかなと思っております。

17年度ですが、17年度をベースにして収入を倍にして、コストカットという話がありますので、17年度に比較しますと、人数については32%の伸びでございます。それから、収入の方は27%の伸びになっております。だんだん、それぞれの目標に近づいていくのかなと思っています。

7月は、前半にサミットがあったということと、7月の前半の土・日は雨が結構多かったということもあって、後半でぐんと伸びてきております。

それから、3-5のアニマルファミリーについては、先ほど報告をさせていただきましたので省略します。

資料3-6の歳入歳出の状況でございます。

これは予算の話ですが、一番上に歳入がありまして、2に経常経費ということで支出が入っております。それぞれ目標値が決まっていますので、大分健闘していると思いますが、まだ目標は達成していない状況です。

どちらにしても、先ほどもちょっと触れましたように、収入の合計と書いて黄色で線を引かれている下に増減率とございます。そして、2007年度を見ていただくとわかりますが、29.6%ということで、17年度、2005年度に比較しますと29.6%ということで、17年度、2005年度に比較すると大体30%まで伸びてきております。

それから、経常支出は、残念ながら、同じ見方をしますと、マイナス1.8ということで、まだ30%にほど遠い状況でございます。

というのは、正直に言いまして、ここの主なものは光熱水費なのですが、重油、灯油という燃料費がここにはね返っています。

3-7に、燃料費だけを整理したものがございます。

一番上を見ていただきますと、A重油です。うちの暖房はほとんどA重油なので、これで比較しますと、量では減ってきていますが、単価が上がっていることもあって伸びています。

17年4月時点のA重油はリットル当たり49円だったのですが、今は102円になっていますので、2倍ちょっとの伸びになります。

その下の段にあります灯油も使っていますが、これは17年の単価が4月の時点で47円だったのですが、今だと105円ということで、これも2倍ちょっとということで、我々動物園を運営する側としては非常に厳しい状態でございます。

量的には減っているのですが、金額は単価の部分ではね返るものですから、ちょっと厳しい状態になっております。とはいいつつも、量では目標値がございますので、減額出来るような努力は重ねていきたいと思っております。

水道も、2000年度と比較すると結構落ちてきておりますが、2005年度は9,100万円だったものが今は6,800万円まで落ちています。基本構想にある目標値に向けての努力はしておりますが、何せ油代が高いのは我々の想定外の状況なので、ちょっと厳しいかなと思っております。

緊急報告をざっとお話しさせていただきますと、こんなところです。

○原田委員長 ありがとうございます。

ただいま、近況報告をいただきましたけれども、何かございますでしょうか。

○金澤園長 野生復帰の会議とシンポジウムについては、近いうちに会議録がアップできると思っております。発言者の確認を取るのに海外に送らなければならないのです。それこそ英文とかロシア語に翻訳してから送らなければならないものですから、そういう意味でちょっと手間取っております。

○原田委員長 こういう国際シンポジウムまで開けるようになったというか、開いたとい

う事実は大変なものだと思います。ちょうどタイミングも非常によかったと思いますし、いいことだなと思います。

ちょっとお聞きしますけれども、動物園国際協会がありますね。

○金澤園長 世界動物園水族館協会です。WAZAという団体です。

○原田委員長 円山動物園はそれに入っているのですか。

○金澤園長 うち、個別の加入はまだしていません。日本動物園水族館協会には我々は加入していますが、それ自体がWAZAの会員になりますので、そういう意味では会員の中の会員という位置づけになります。

ただ、動物園個々に加入することは可能なので、もう少しうちの実績が出た時点では加入したいと思っています。

こういうイベントの中で、去年、19年度は105件のイベントをやっているのです。週2回、何らかの形で行っているのです。そして、そのイベントの51%が市民、企業、大学と連携して行っているのです。ですから、動物園単独で開催しているのは49%と大体半分くらいなのですが、少しずつお互いに連携し合える状況になってきました。

今年、酪農学園大学と包括的な提携を結びまして、その前にはネズミ展にあわせて霧多布湿原トラストとやっていますので、そういったことの効果が少しずつ表れてきています。

そんなことがありまして、今年度は七、八割のイベントが何らかの形で企業なり皆さんと連携出来るような状態になってきています。

そういう意味では、おかげさまで、各委員の皆さんのいろいろなアドバイス、それからマスコミの皆さんの協力もありまして、いい方にスパイラルしているのかなと思っています。少しずつ、そういう引き合いが増えてきていますので、そういう連携がだんだん可能になってきます。

この2年間のマスコミの露出の仕方は、動物園が何かをやりますということが多かったのですが、最近は、どこか別な学校とか、別な企業が、こういう企画を動物園でやりますという見せ方が実はふえてきています。そんな意味でも、今回、連携というところでタイミングよく出ていましたので、これをお配りさせていただきました。

○原田委員長 こちらから連携を依頼するというやり方と、最近は動物園の求心力が随分強くなったというか、やらせてくれというような動きを非常に感じますね。

ですから、生物多様性ではないけれども、イベント多様性という感じで広がっている気がします。

委員の皆様、何かございますでしょうか。

○鈴木委員 お金のことを伺いたいと思います。

目標に大分近づいてきているというのは大変望ましいことですが、それでも石油の高騰があるということです。

二つほど伺いたいのですが、一つは、58ページにあるのですが、経常収支を倍増させるために年間パスポートの値段を検討しているということが書かれていました。展

示内容のリニューアルにあわせて検討していくと。ほかのところに年間パスポートは安いという声が大変強いということも書かれていましたので、そのあたりの検討をなさっているのかということです。

もう一つ、ミュージアムショップがオープンして、いろいろなものがあって大変盛況だなと思いました。たくさんのお客さんが入って、たくさん買っていらっしゃいますので、そのあたりの状況を教えていただければと思います。

○金澤園長 まず、年間パスポートですが、これは基本構想の段階からありまして、基本構想をつくる前に市民アンケートをかけたのですが、そのときも安いというご意見があったのです。その割合が結構高かったので、将来的にというか、今すぐではないですが、施設の魅力アップしないうちに値上げしますと、逆にお客さんが来なくなりますので、そういう魅力アップがきちんとできた時点ではやりましょう、そこを視野に入れていこうという考え方で基本構想に盛り込んでございます。

そういう意味では、常に検討の対象にしています。

ただ、いつからというのは、今のところはまだありません。

○鈴木委員 年間パスポートによる入園料収入というのはどのくらいの割合なのですか。そんなに大きくはないのですか。

○金澤園長 19年の時点で3万7,000枚売れています。ですから、3,700万円くらいです。入園料収入というのは1億6,000万円ですから、5分の1くらいです。

○鈴木委員 200円上げたら収入がすごくアップするのではないかという気がしたのです。

○金澤園長 実は、ことしは年間パスポートを3万枚印刷したのです。底を尽きそうなので、慌てて2万枚を増刷しています。ですから、結構売れてくると思います。

大体3万枚売れますので、それを使って入ってくる方は約9万くらいですから、3回転ですね。それくらいの割合です。ですから、買った人は元が取れているのです。

1. 2回以上来ると、今は600円ものが1,000円ですから、そういう意味で……。

○鈴木委員 私は毎年買わせていただいているのですが、安くて申しわけないなと思っています。

○金澤園長 そういう方は、ぜひアニマルファミリーなどの方でひとつお願いしたいと思います。

それから、ミュージアムショップ、オフィシャルショップは結構売れています。内容も充実してきて評価もいいのですけれども、民間企業がやっているもので、今は売り上げがどうかというのは、私の方では今の時点では確認が取れません。でも、結構売れるようですよ。

○林委員 インセンティブは入っているのですね。

○金澤園長 はい。売り上げの何ぼという形で入っています。

○林委員 それがどれくらいだというのは言えないのですか。

○事務局 言えないです。

○**金澤園長** とても恥ずかしいくらいの……。

○**林委員** 少ないと思います。僕は知っていますけれども、大したことはないです。

○**金澤園長** デパート並みにぼんと取ればいいのですけれども、まだまだそこまでいかないです。

○**原田委員長** ほかにございますでしょうか。

○**林委員** パスポートを値上げするのは、計画的にやらないと大変ですよ。さあやろうといても、2年後か3年後の話になってしまうのです。なぜかというと、今は1,200円で、値上げをするのだったら今のうちにもう一つ買っておこうかなとか、でも1年だから間に合わないかなとかね。切りかえの時期は、加入したときから切りかわるので、どこを整理するのかということがあるので、これは2年くらいの計画になりますね。2年越しの計画になりますので、当然、市は考えていらっしゃるでしょうから、なおのこと、やりにくいと思います。

○**金澤園長** その前に、60周年で100万人という目標があるので、先に値上げしてしまうと100万人達成はもっと厳しくなるかなというところがありますので、その辺は動物園そのものの魅力とセットにしなから考えていきたいと思います。

○**原田委員長** もう一つの考えは、重油や灯油が値上がっていて、その値上がり分はどうしようもないと思うのです。コストが上がれば、それは回収して受益者負担という形でご負担いただくという考えもあると思います。それで儲けるということではなくて、それだけのプラスを付けるということですが、それもタイミングの問題があるかなという気がします。

○**金澤園長** 重油を基準にすると、重油が下がったときに値段を下げなければならないという問題が出てきますので、それを理由にはしたくないのです。ですから、きちんとした変動のない考え方でやっていきたいと思います。

○**いがらし委員** 重油が下がることはあるのですか。

○**金澤園長** 重油は下がる可能性はあるでしょうね。投機ですからね。投機マネーがどこか別なところに行けば重油は下がってくる可能性があると思うのです。

○**いがらし委員** 今年の冬はどうやって過ごそうと思っています。

○**原委員** 資料のことでよろしいですか。

この基本計画は、このまま固まってしまうのですね。前回気がつけば良かったのですが、気になった文章があります。

7ページ一番上の概要のところ、「環境教育がめざす自ら考え環境に配慮した行動を出来る人づくりを行うためには、リーダーとなる人材を」というところが、ちょっと理解しにくかったです。ここは、「行動の出来る人づくりを行うために」だと思っただけです。

○**いがらし委員** そうじゃないですか。

○**原田委員長** そのとおりのようです。

○**金澤園長** これはよく分かりませんね。

○原委員 もう一カ所なのですけれども、89ページのスケジュールの欄で、「2007年度（平成19年度）類人猿館改修時に」というところですが、最後に「ペア飼育を開始」となっていますけれども、これは2007年度ではまだされていませんので、どうにかされた方がよろしいかと思います。

○金澤園長 本当は入る予定だったのです。

ありがとうございました。

○金澤園長 ほかに何かございますか。

○井上委員 先ほど委員長と林委員からもオオカミ舎はすごくいいという評価がされました。私も改修してから何度か行きまして、すごくいいなと思っているのです。

私は、オオカミが好きで、全国の動物園でオオカミを見ているのですが、大抵は狭い檻の中に閉じ込められていて、グルグル回る常道行動を繰り返しているというのが動物園のオオカミのイメージでした。ここが出来たからキナコを見ているのですけれども、グルグル回っていることがほとんどなくて、先ほどハチを追いかけているという話がありましたが、それを聞いてすごく魅力的な施設だなと思いましたし、前の施設に比べると、あそこに目をとめるお客さんが確実に増えているなど感じました。

また、お客さんの感想も、前のオオカミ舎だとお父さんが子どもに、こいつは山にいたらガブッと噛みつくだろうという非常に誤ったイメージとか、オオカミはすごく怖いというイメージが多かったのですけれども、ここが出来てから、毛並みのいい犬みたいだねとか、オオカミそのものに対するイメージがかなりソフトになってきているのです。パネルなどもありまして、環境教育がコンセプトにあるのですが、そういう点はすごくいいなと思いました。

それはすごくいいなと思ったのですけれども、先ほど林委員がおっしゃったように、せっかくいい施設なので、もうちょっとPRをした方がいいと思います。

せっかく旭山動物園と同じ時期に企画をして、しかも旭山動物園より先にオープンしたのに、メディアの扱いが大きく異なっているのです。もちろん、旭山動物園のまねをする必要はないと思うのですけれども、オープニングのイベントとして人形劇をやられたということと、オープンの日には市長がテープカットをしたということですが、オープニングのイベントとしては、旭山動物園に比べるとアピール度がいまいちだったなという気がします。

それに対して、旭山動物園は何をやったかという、坂東さんと、知床の増田さんが来て、「もう遠吠えは聞こえない」と題した講演会をやっているのです。まねをする必要はないと思いますし、人形劇は悪いとは思わないのですが、僕は企画としてはひねり過ぎだと思います。せっかく、もともと北海道にあった森林生態系を再認識するための施設なので、それは直球勝負で企画をした方が良かったのではないかと思います。

それが1点です。

それから、ハーティナイトというイベントがありまして、いわゆる障がい者の方に優先

的に来てもらうイベントがあります。ことしは、該当者ではない方も混じっているので、17時の閉園時間に一旦全員退園してもらう形を取ってやっています。ただ、該当者の中には、昼から来ていて、そのまま夜まで見たいという方もいらっしゃると思うのですが、5時に一旦出てから30分待たされるのですね。多分、障がい者の方のイメージとして、車いすに乗っていると、白杖を持っているとか、外見上、明らかに障がいをお持ちの方というふうに分かるというイメージがあるのですけれども、そうではなくて、例えば、自閉症とか自閉傾向のある方というのは、せっかく夜の動物園を見ようと思ったのに、17時に一度出てくださいと言われてたら、見られないのかと思ってパニックになる人もいるので、そういうところはもうちょっと考える必要があると思います。関係ない人が入るのはまずいわけですから、その辺は難しいと思いますけれども、今年は一度出てもらう形にしたのですが、ちょっと問題が残ったのではないかと思います。

それから、これは円山動物園に詳しい知人から聞いた話ですが、ボランティアさんについて、教えてくれることがうろ覚えだったり、間違っていたりすることがあるということをお聞きしました。例としては、ホッキョクグマについてなのですけれども、ララとデナリの交尾が確認されたので、サツキとデナリが同居しているのにもかかわらず、サツキとデナリは今年もだめだったのですよというふうな説明をされている。

もう一つ、これはボランティアさんかどうかわからないのですが、オオカミ舎の前で、アイヌがオオカミを狩猟し過ぎて絶滅させたというふうな間違った内容の説明をしていたらしいということを聞いています。

やはり、正しい知識を教えないと、動物園の信用問題にもかかわることですし、分からないなら分からないということを明確に答えるべきではないかと思います。

それから、フラッシュ禁止になっているのにフラッシュ撮影をしている人に注意をしない。そのために、ほかのお客さんがほかのお客さんが注意して険悪なムードになっていることもあると聞いています。その辺について、ボランティアさんの再教育と言うと随分偉そうな言い方ですが、お考えいただきたいと思いました。

あとは、アニマルファミリーについてはいろいろな意見を出していただいて、どうもありがとうございます。

料金については、林委員と委員長が言ったように、その内容について再検討してはという方向で私もよろしいと思います。

もう一つだけ補足なのですけれども、お客さんの意見としては、今、個体ごとに対象になっているのですけれども、お客さんの中には、メールが来ないこともあるのだけれども、死んだらどうなるのかと知っているところがありますので、個体ではなくて種でいいのではないかという意見もあるそうです。

長くなりましたけれども、以上です。

○いがらし委員 死んだら残りが返ってくるのですかと言われてたら嫌ですね。

○金澤園長 今の意見ですが、ハーティナイトは、障がい者かどうか分からないというこ

とがあるのです。そんなこともあって、もともとの発想は、障がいのある方が健常者と一緒だとなかなかゆっくり見られないというところが始まっているのです。そして、障がいのある方だけをその日に招待する形をとっていますので、できれば一回閉めたいと思っています。

あの時だけで大体500人入っています。障害手帳を確認できているのは180人です。大体200人で、残りの300人が付き添いなりで来ている方ですから、申し訳ないけれども、一旦は5時から5時半まで時間を空けたことでそういう整理がつくと思います。そうでなければ、天気さえよければ、今は平日でもそうですが、5時ではお客さんが出切れません。あんな日はもっとゆっくりさせてほしいという意見なのです。そんなこともあって、はっきりさせる意味で仕切りを入れております。

それから、アニマルファミリーですが、個体ごとにするか、種ごとにするかはちょっと検討させていただきたいと思います。種にすると、お客さんが大分減るかなという感じがしないわけではありません。

○いがらし委員 個体の方が親しみがわきます。

○金澤園長 それから、愛着の度合いがどうかということが分からないので、それはこの次のステップの中で検討させていただきたいと思います。

それから、ボランティアさんの件は、ボランティアさんの代表者にもきちんと話を伝えておきたいと思います。

○原田委員長 今のご意見の中でオオカミのイベントということがありましたけれども、スウェーデンの動物園で、ほとんど森の中にある動物園なのですが、そこはオオカミのゾーンで、園路からレストランに入っていくような所があるのです。ここは何ですかと聞いたら、オオカミは夜に活発になってグルグル走ったりするので、それを見ながら御飯を食べようという会を設けているのです。そういうディナーパーティーを出来ますということで、では、何日の夜はお願いしますということのようなのです。昼はオオカミがそのあたりで寝てしまっているのですけれども、夜には元気になると。

今日、オオカミ舎を見てもみますと、ちょうど入口から入ったところはレストランにも出来るような感じがしていました。そういうふうなイベントがあってもいいかなと思いました。

○林委員 ロハスナイトをやっていますから、それをオオカミ舎でやれば、オオカミロハスナイトにすぐに出来てしまいます。

○金澤園長 今、ロハスナイトはサル山でやっていますが、行く行くはオオカミ舎でもやりたいと思っています。一回やってみて、使い勝手などもきちんと検証してみたいと思っています。

○林委員 タイトルのつけ方だけです。今はロハスナイトと言っていますがけれども、オオカミロハスナイトにすればオオカミのイベントになりますので、別段、そんなに力を入れなくてもいいと思います。

それから、先ほどのアニマルファミリーの話ですけれども、いろいろなボランティア活動をやりながら思うのですが、今は北海道もそうですが、こういう北海道だからこそ出来ることだと思うのは、寄附のドネーションの文化が日本の文化の中には余りないのですが、大阪にはそういう文化が昔からあるようですね。それは、財閥の方たちなどの商業からのドネーションの文化があります。

そういう中で、貧しい北海道は、個人とか外からのドネーションの文化をつくるというもっと気高い意識を持つというベースの中で考えた方がいいと思うのです。

どうしても、委員長がおっしゃる対価というのは、ドネーションの文化の中にもう一つそれを築くために、サービスというのは本来はドネーション(寄付)の意識には合わないと思いますけれども、みんながお互いにドネーションをやることによってある喜びが得られるということが大切だと思うのです。それは日本の中にもないけれども、札幌の円山動物園でそういうことが起きたと。200人のベースの人をきっかけに、そういう意味も含めて、寄附の文化というか、そういうものを円山動物園から発信する気持ちが大切。僕らからすると、ここは最大のコンテンツだと思うのですよ。本当にすばらしいコンテンツ、中身があります。

こんな計画は民間では立てられません。右肩上がりにこうしますなんてね。こんな右肩上がりに都合よく出来ますかという話です。でも、最大のコンテンツは、動物たちがいる、そういう環境があるということです。それは、ぜひ札幌市のためにもやっていただきたいと思います。

もう一つ、ドネーションの文化というのは堂々とやっていただきたいと思います。

最後に言いますけれども、メトロポリタン美術館に行っても、どんなところに行っても、ドネーションをするところはそれなりに誇り高くやっているのです。加えて入場料が掛かっているでもです。それが寄附をする者の義務だったり、自分はそういうことが出来るという喜びを持っているのだというふうにならないと、貧しい北海道ですから、金を持っている人たちがそういう気分を味わうための場所だというふうになると、お金が集まって来ると思います。

○原田委員長 私も、アニマルファミリー制度はそれへの第一歩というふうに考えています。

大学でも、何々ハウスとか、本当にドネーションで建てた校舎がある。この図書館は誰々のドネーションで建てたと、みんな個人の名前がついているわけです。そういうことで、そのアニマルファミリー制度が企業に流れていくと、本当になるかなという感じがします。

それでは、予定の時刻を過ぎましたけれども、近況報告はこれで終わりにさせていただきます。

その他として、こういう機会に何か言っておきたいことがございましたら、ご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

最近聞いたことですが、今日は服部副委員長を初め、おいでにならなかった委員が何人かいらっしやるのですけれども、この時間は非常に限られていますし、テーマもはっきりしているわけですから、もうちょっと懇親的な場があってもいいと。せっかく出会っているのだから、会というか、機会、チャンスを設けてもいいのではないかというお話を聞きました。交流会というか、懇親会ということですが、もしもやるということなのであれば準備をしようかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

とても忙しくてそれどころではないということかもしれません。

○いがらし委員 午前中からは嫌ですが、午後なら全く構いません。

○原田委員長 少し暗くなってからという方が好ましいかもしれません。

動物園の方にもご参加いただいてということですね。

そういうことで、企画を作ってみましょう。そのようなことも検討させていただきたいと思います。

今日は、こういうことでよろしいですか。

○金澤園長 はい。

3. 閉 会

○原田委員長 それでは、本当に貴重な土曜日の午後の時間を割いていただきまして、ありがとうございました。

きょうは、いろいろといいご意見をいただきました。感謝を申し上げます。

○金澤園長 次回は11月から12月にかけての開催を予定しています。改めて、メールで日程調整をさせていただきたいと思います。

それから、差し支えなければ、この後、セブン・イレブンとカフェ・アースを視察される方がおりましたら、ご案内いたします。

あとは、インドネシアの大きな昆虫もいますので、もしよろしければご案内させていただきます。

○原田委員長 ありがとうございました。

以 上→